

## 令和3～5年度に係る学長の業績評価（最終評価）について

令和6年9月30日

国立大学法人静岡大学長選考・監察会議

国立大学法人静岡大学長・選考会議は、令和3～5年度に係る学長の業績評価（最終評価）を実施しましたので、「国立大学法人静岡大学長の業績評価に関する規則」第6条及び「静岡大学長の業績評価の取扱いについて」第5に基づき、下記のとおり公表します。

### 記

#### 1. 経過

##### (1) 令和6年度第1回学長選考・監察会議（令和6年4月23日開催）

令和3～5年度に係る学長の業績評価（最終評価）を「静岡大学長の業績評価の取扱いについて」により9月末日までに実施すること、学長選考・監察会議による学長へのヒアリングを実施すること、学長が作成する自己評価書様式及び学長選考・監察会議委員が作成する業績評価書様式について確認した。

##### (2) 令和6年度第2回学長選考・監察会議（令和6年6月26日開催）

学長から、自己評価書に基づき、各評価項目の業績に対する説明があり、ヒアリングを実施した。ヒアリング実施後、委員間で評価区分及び全体を通しての意見交換を行った。

##### (3) 令和6年度第5回学長選考・監察会議（令和6年9月25日開催）

令和3～5年度に係る学長の業績評価（最終評価）の最終確認を行った。

#### 2. 評価結果の概要

別紙のとおり

# 国立大学法人静岡大学長業績評価 評価結果〔評価概要〕

国立大学法人静岡大学長選考・監察会議

学長の所信と中期計画等を着実に達成したと認められる

評価対象期間 令和3年4月1日～令和6年3月31日  
評価日 令和6年9月25日

## 内 容

### 〔教育〕

学長のリーダーシップの下、地域連携を指向するグローバル共創科学部及び山岳流域の地域課題を扱う山岳流域研究院を新たに設置したことを、高く評価する。また、情報教育充実の推進や、人文社会科学研究科におけるリカレント教育の体制整備なども、地域の期待に応える人材育成の取り組みとして評価する。特に情報学部の数理・データサイエンス教育については学外からも高く評価されており、令和5年度には理学部も文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に認定され、他の学部でも取り組みが進んでいる。これらの取り組みに「静岡大学の特色を生かす」という観点が加われば、本学の特色として外部発信できる成果となることも期待できる。中間評価において課題となっていた教育の質保証に関する取り組みは、自己点検・評価を実施し改善に努めたことを評価する。所信で表明した取り組みについて、スピード感をもって着実に進めており、全体として高く評価する。

### 〔研究〕

県内大学間の連携強化を図るため、シンポジウム開催などの取り組みを進めたことを評価する。また、科学研究費の採択数向上に取り組み、一定の成果が得られたことを評価する。中間評価における課題として、大型研究費の採択数の増加や大学全体の研究力向上に向けた課題に向き合い、プロジェクト研究所の拡充や新たに組織的な研究力向上に繋がる取り組みに着手していることは評価できるが、まだ十分な成果をあげるには至っていない状況であることから、今後の取り組みに期待する。また、継続した研究力向上のため、研究環境の整備と支援などの継続的な取り組みに期待する。

### 〔社会連携・地域貢献〕

地域連携を指向したグローバル共創科学部の設置及び流域課題解決に関わる山岳流域研究院の設置により、地域社会の発展に貢献する人材育成の基盤のひとつを整備し、学内外に本学が教育を通じて地域貢献を目指すとの力強いメッセージを発した。また、従前からの県西部地域を中心とした産学連携の関係を維持・発展させたほか、多様な地域団体との連携推進や理科教育を中心とした地域貢献、防災総合センター関係教員による災害調査など、多種多様な社会連携、地域貢献に向けた取り組みが積極的になされている。加えて、松崎町、松崎町観光協会、伊豆半島ジオガイド協会との4者共同による「2030松崎プロジェクト」の推進、未来社会デザイン機構による「伊豆半島探究学習サミット」の開催などによる地域の特色を生かした静岡県東部地域の振興を支援する新しい取り組みが開始されたことを評価する。東部地域の振興支援の規模は現段階では小さいが、今後、大学の組織的取り組みとして教員が連携することで「地域連携プラットフォーム」の構築が可能と

なるので、学長のリーダーシップの下、本学独自の地域貢献活動の柱の一つとされ、さらに、これらの取組みを静岡県全体へ展開し、大学の教育・研究の向上に繋がることを期待する。なお、実績の出ている取組みに関し、社会に向けて情報発信を行う体制を整備、充実されることも併せて期待する。

#### 〔国際交流〕

新型コロナウイルス感染症による行動制限のある中、オンラインを活用して様々な取組を推進し、国際的な連携を維持したことを評価する。オンラインのメリットを生かした交流も継続しながら、地域の国際化拠点の形成を期待する。グローバル化推進に向けて、学生の海外留学支援、留学生への支援、ＡＢＰの充実、職員の海外研修の取組みの継続・発展に期待する。

#### 〔大学運営〕

現物寄附の受入れ体制の整備やネーミングライツ事業の導入などの自己収入拡大のための新たな取組みを進めたこと、在宅勤務制度を整備・拡充するなどの教職員が働きやすい環境を整備したこと、情報基盤を整備したこと、外部への情報発信のために統合報告書を発行したことを評価する。

浜松医科大学との法人統合・大学再編については、学内の意見が大きくわかれる中、丁寧に対話を重ね、最終的な着地点を見出すため学内の合意形成に努めたこと、解決に向け「静岡大学未来創成ビジョン」を学内決定したことを高く評価する意見がある一方、ビジョンを公表後も浜松医科大学との協議が膠着し続け、関係自治体等への説明がされていないこと等を指摘する意見もあり、委員間で評価がわかれた。今後は、浜松医科大学との協議が進展し、地域社会の理解を得て、両大学にとって望ましい着地点を見出すため、スケジュールをより意識した進捗と、学長のリーダーシップの発揮を期待する。

#### 〔総括〕

当会議は、業績評価を通じ、学長が静岡大学の教育、研究を発展させるべく、信念をもって、所信と中期計画を着実に実行されていることを確認した。特に、新学部設置や本学の今後の方向性を示す「静岡大学未来創成ビジョン」の策定、地域連携の積極的取組みを高く評価する。

浜松医科大学との法人統合・大学再編問題については、浜松医科大学との協議が膠着し続ける状況であるが、学内決定した未来創成ビジョンを活かしつつ、早期の問題解決が望まれる。

当会議は、学長が、静岡大学のさらなる発展へ向けた展望を示し、執行部が一致団結して、法人統合・大学再編問題を含む大学運営上の優先課題に果敢に取り組むことを期待する。